

# ここサポ養成研修・吹田市

## 事例の概要

**市の社会資源を最大限活用し、多くの関係者を巻き込んで大規模に展開**

## 事例のポイント



- ✓ メンタルヘルスや精神障害等について、研修を通じて受講者が理解を深めるだけでなく、**市内の関連事業にも関心をもってもらい、小さなことから行動を促すための仕掛けを準備**
- ✓ 受講者が**地域の繋がりを感じられ、受講後も記憶に残り続けるイベントにできるよう前後の演出等も含めて企画**
- ✓ **企業や大学等とも連携し、積極的な協力体制を構築**

## 研修の開催概要



年度	実施回	養成人数	対象
令和4年度	第1回	24人	・吹田市職員
	第2回	181人	・市内の大学生（大和大学）、吹田市職員
	第3回	408人	・一般市民
令和5年度	第1回	76人	・大塚製薬（株）職員（本社・関西エリア）
	第2回	345人	・一般市民
合計	5回	1,034人	

## 実施体制 1 市単独での実施



- ・ 当日は文化会館のホールを会場とし、**吹田市ならではの演出も盛り込んだイベントとして大規模に実施**した。（詳細はp.3に掲載）
- ・ 当日の実施体制は、1年目は障がい福祉室と障がい者相談支援センター職員で対応し、2年目は福祉部全体に人員体制を拡大して対応した。

## 実施体制 2 大学との連携



- ・ コロナ禍での学生のメンタルヘルスについて問題意識があったため、学生向けの開催を検討・実施した。学生の受講については大学教員へ相談し、**研修の内容に関心の高い教育学部の学生を中心に受講**いただいた。
- ・ 令和6年度は、新たな形で学生との連携を開始（詳細はp.4参照）



## 実施体制 3 企業との連携



- ・ 市と大塚製薬との間で包括協定を締結したことをきっかけに、具体的な取組を検討していた。吹田市から本研修での連携を提案したところ、前年度に大塚製薬社員が市民向けのここサポ養成研修を受講していたこともあり、**全社的な取組としての連携が実現した。企業としても社員の心の不調のケアには問題意識があり、積極的に対応いただくことができた。**
- ・ 吹田市は事前の数回の打合せと当日の会議室の提供を行い、企業側が研修の周知、申込受付や機材準備・操作等の事前準備・当日対応を行った。

## 研修準備・実施の工夫

### 実施の流れ

#### 実施計画



#### 開催周知



### 研修準備・実施の工夫とそのねらい

#### 準備期間

- 研修当日の **3か月前から応募受付**を開始できるよう、早期に実施準備を進めた。  
→ 確実な応募期間を確保することで大人数の呼び込みを実現。
- 文化会館のホールを利用して大規模に実施するため、**館内での待ち時間も活用した様々な企画を立案**。具体的には、障害福祉事業所や精神保健に関わるボランティアと連携した取組や、ご当地キャラクターとのコラボレーションも計画・実施した。  
→ 市内における**精神障害がある方の支援の取組等について、多くの住民に関心をもってもらい、小さなことから活動に関与する機会を提供できるよう企画を立案した**。

#### 企画立案

#### 関係者への訪問とチラシの配布

- 特に初年度は研修の認知度向上に力を入れた。研修開催は平日日中を予定していたため、主婦や高齢者等の目に入りやすいチラシを中心とした周知活動を行った、
- チラシは8,000部用意し、**民生委員や自治会長の集まりの場、ケアマネジャーの集まり、介護保険事業者の会合、大学教員等のもとに吹田市担当が直接出向き**、研修趣旨を説明の上チラシを配布してもらうこととした。  
→ 受講者からは、チラシを見て研修を知ったとの声が多く聞かれた。

#### SNSの活用

- ご当地キャラクターである「すいたん」とコラボレーションし、「すいたん」の公式X（旧Twitter）アカウントから研修について発信した。
- なお、令和6年度は発信力の高い大学生と連携したSNSによる周知にも力を入れている。（詳細は p. 4 に掲載）

作成したチラシの例



ご当地キャラクターとのコラボレーション



## 研修準備・実施の工夫

### 実施の流れ

### 研修準備・実施の工夫とそのねらい

#### 当日対応



#### 当日の体制整備

- 会場が大きいため、受付や誘導係等の当日の役割分担を細かく定め、事前の打合せで役割ごとの動きについて綿密な計画を立てた。
- 体調不良の方への配慮やグループワークの際に必要な声掛けもできるようにスタッフを配置し、会場内ではインカムでやり取りをする体制とした。

#### 関連事業との連携

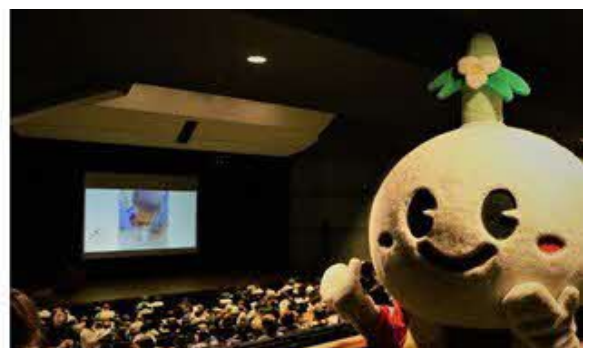
- 待合スペースでは、障害のある方が制作した製品の展示や販売、吹田市精神保健福祉ボランティア養成講座（※）の募集を行うスペースを設けた。  
→受講者には市内の様々な支援の取組や障害のある方の活動を知ってもらい、多くの方にその場で製品を購入いただいたり、ボランティアに申し込んでいただくことができた。

#### 演出の工夫

- ホール内では、待ち時間の間スクリーンに市内の障害福祉事業所のイベント風景などを投影し、開会の際は「すいたん」とコラボしたオープニング映像、吹田市出身でアンバサダーでもある葉加瀬太郎氏の音楽を流す等の工夫を行った。また、記念品として、「すいたん」とここサポのロゴをデザインした缶バッジを独自に作成し、受講者へ配布した。  
→吹田市の地域のつながりを思い起こさせる、受講者にとって印象に残る演出を行った。

※吹田市社会福祉協議会と吹田市が共催する事業であり、心の病について理解を深め、関連するイベントのサポート等を行うボランティアを養成。

#### 当日の研修会場の様子



## 期待する研修の効果と実施結果について

- 自治体事務局としては、まずは多くの方に受講していただき、ここサポが地域で広まること自体が取組の効果だと考えている。それにより、家族や同僚など身近な人の心の不調に少しでも気づける人が増えることを願っている。
- 取組の効果が目に見えるまでには時間がかかると思うが、受講者や市民からは以下のような反響を頂いており、地域に少しずつここサポが浸透している一つの現れと捉えている。

受講者・市民  
からの  
うれしい反響



- ◆ ある受講者は、研修修了後、認定証が届いたことを喜んで市役所に報告に來られた。
- ◆ 研修会場で募集した精神保健福祉ボランティア養成講座への申込みにもつながり、同講座への申込者の約半数をここサポ養成研修受講者が占めていた。
- ◆ 受講者の方が、研修修了後にここサポをご自身の家族（子どもと孫）に勧めたことで、親子3世代で受講していただけた例もあった。
- ◆ 研修の評判が口コミで広がり、「今年はいつここサポ養成研修が開催されるのか」と自治体に市民からの問合せが多く寄せられるようになった。

## 今後の課題

### ① 研修へのフィードバックの取得と活用

昨年度までは実施事務局の研究目的のアンケートを優先し、自治体独自のアンケートを控えていたため、受講者からのフィードバックを受け取りづらな部分があった。

→ 今年度からは独自に事後アンケートを行い、今後の改善に活かしたい。

### ② 開催日程の調整

過年度は平日開催であったために、参加が難しい受講者もいたと思われる。

→ 今年度は土曜日に開催し、今まで来られなかった方にも来ていただけるよう企画している。

### ③ 研修受講後のステップアップ

ここサポ養成研修受講者がステップアップをしたいと思ったときに、指導者になるためには国家資格等が必要となる点で難しさがある。メンタルヘルス・ファースト・エイドの研修も、時間と費用の面でややハードルが高いと感じている。

→ 受講者の今後のステップアップについては、引き続き検討していく。

## 今後の取り組み方針

### ① 関連分野との連携

今年度は、障害者週間（12月3日～9日）のイベントのうちの1つとしてここサポ養成研修を実施予定。昨年度と同じく文化会館の中ホールを利用予定だが、子どもからお年寄りまで年齢や障害の有無に関わらず誰でも参加できる「ゆるスポーツ」を、館内の別部屋で体験できる催しを行う予定。

これに伴い、障害者週間、ゆるスポーツ、ここサポ養成研修の3種類のチラシをつくり、どのチラシを見てもそれら3つが繋がり、各情報を得られる仕様を検討している

### ② 子ども、若者、子育て世帯への周知

市内の小学校の校長先生に声をかけ、各学校でチラシを配布してもらうよう依頼予定。子どもを通じて家族にも研修等の情報を知ってもらい、関心を持ってもらうことが目的。

学生向けには、発信力のある大学生からSNSを通じて情報を広めてもらうことを想定している。具体的には、吹田市と大学が連携して独自のゆるスポーツを考えるワークショップを開催しているため、これに関心があり、かつ発信力のある学生の中から協力者を募っている。吹田市もこれらの学生が通う大学の文化祭に協力することで、学生からの協力を引き出している。